第15回　日本在宅医学会大会　プログラム別　詳細情報

カテゴリー	交流会
タイトル	日本在宅医学会の中心で訪問マッサージ鍼灸の意義を叫ぶ！ ～医療介護と連携できるマッサージ師、鍼灸師になるために～
日　　時	平成 25 年 3 月 30 日　15：10～17：00
会　　場	真珠の間 B
進　　行	医療法人ゆうの森　はりきゅうマッサージ治療院クローバ　永吉 裕子
演　　者	東京都鍼灸師会会長･高田 常雄先生、たんぽぽクリニック･矢野 博文、一井 美哉子
企画趣旨	日本は高齢化率が 21%以上の超高齢社会になってきております。しかし、高齢者が多くなってきましても，75%の方々はとてもお元気で、健康的に余命を過ごされています。 そのうち第一線で活躍されている高齢者が 20%、また約 25%の高齢者は不健康余命状態です。このＱＯＬ低下状態での生活を強いられている高齢の方々の生活は医療・保健・福祉・介護の多職種が協力して支えて行かなくてはなりません。これらの関係者が、ともに力を合わせて各職種の得意とする技術や技能、知識を最大限に発揮しなくては、この日本の超高齢社会に対応し乗り越えて行くことは、とても困難であると思います。そのためには、医療・保健・福祉・介護の関係者が団結・協力し、患者様・ご家族様を中心に地域社会が一体となることが重要と思われます。 その様な状況で「鍼灸師・マッサージ師に、何ができるか！」ですが、 鍼灸師は患者様のＱＯＬ維持・改善のための医療・福祉サービスを提供することが可能です。鍼灸の医療行為としては厚生労働省が医療保険適用疾患として、以下の取り扱いを認めています。 １．神経痛 ２．リウマチ ３．頚腕症候群 ４．五十肩 ５．腰痛症 ６．その他（慢性的な疾患で医師が同意したもの） この中でも在宅医療を受療している方々に多い筋肉の緊張による腰痛症には特に有効と思います。 また他の分野として、鍼灸の福祉サービスが考えられます。在宅生活でその方のＱＯＬをより低下させる要因として「老年症候群」が考えられます。鍼灸はこの老化そのもの（高齢そのもの）が原因となる老年症候群を推し進める症状に対応できると思います。 １．認知機能改善

	２．尿失禁改善 ３．口腔機能改善 公益社団法人日本鍼灸師会では、平成 17 年から東京都健康長寿医療センター研究所（旧東京都老人総合研究所）の各部門の専門の先生方のご指導を賜りながら、「介護予防運動指導員養成講座」を昨年まで全国で 25 回開催し、約 870 名の介護予防運動指導員を育成してまいりました。 私たちは、鍼灸師としての医療・福祉分野でのサービスを行いながら、「介護予防運動指導員養成講座」で学んだ老年症候群対策の知識と技能を在宅医療の分野でも活用しています。 それは、鍼灸の知識と技能、介護予防運動指導員の知識と技能（運動指導）を組み合わせて患者様のＱＯＬ維持・向上に貢献しています。 東京都健康長寿医療センター研究所で開発された高齢者向けの筋力運動は無作為化比較対象試験（ＲＣＴ）において要介護３位までの方に有効とのデータがあるものでＣＧＴ（包括的高齢者運動トレーニング）と言われる筋力運動方法です。その運動目的は以下の症状に有効とされています。 １．認知機能低下予防 ２．尿失禁予防 ３．転倒予防 鍼灸と運動トレーニングを週２～３回行うことで、ＱＯＬを維持・向上して健康余命の期間を長くすることが可能です。 ＊何をすべきか 医療関係者との連携及び毎月の経過報告書の提出 行政や地域包括支援センター、ケアマネジャーなどの主催する地域の集まりに積極的に参加する 最後になりましたが、「第 15 回日本在宅医学会大会 in 愛媛」の大会において、鍼灸師、マッサージ師のためのシンポジウムの場を企画して頂きました、大会会長ならびに学会役員の先生方に深く感謝申し上げます。